

産 業 建 設 常 任 委 員 会 報 告 書 (HP 公開用)

会 議 日 時	令和5年7月13日(木) 午前9時30分 ～ 午後1時30分			
会 議 場 所	○議員控室 ○委員会室 ●議会図書室 ○その他()			
出 席 者 数	委員 5名のうち出席者 5名			
出 席 委 員	委 員 長	古谷 幹夫	委 員	中野 正延
	副委員長	村井 眞菜	委 員	佐竹 将典
	委 員	橋本 章央		
説 明 者	にぎわい創出課	課 長 小笹義博	農林水産課	課 長 佐竹雅人
		副 課 長 佐竹仁美		副 課 長 高橋 亮
		係 長 笹岡真之		係 長 伊藤悠人
		主 事 野田 葵		
傍 聴 者				
付 議 事 件	1. 観光交流拠点整備事業について 2. あぐり窪川の現状について			
	3. 視察研修について 4. その他			
審 査 ・ 調 査	1. 観光交流拠点整備事業について			
	6月8日に説明を受けた時、各委員から出された質問及び担当課の答弁に関する			
	資料、基本設計に関する資料等をベースに、自由に意見を交換した。			
	主だった意見としては次の通り。			
	○令和4年9月補正予算で計上された基本設計委託先を「良品計画」とした経過を			
	確認しておく必要がある。(古谷)			
	○インターチェンジは見付にもできるのでは？確認が必要。(中野)			
	○四万十町の観光振興をどうしていくのかという視点が重要。花と緑の構想で地域			
	に経済効果が期待できるのか。(村井)			
	○今の時代は目的に沿ったものを選ぶ時代。(村井)			
	○道の駅そのものの魅力化が重要。(村井)			
	○徳島のオアシスはほとんど人がいない(橋本)			
	○くるくる鳴門の取り組みは、写真の見栄えを良くすることを重視した施設となっ			
	ている。(佐竹)			
	○あぐりのフォロワーは960人、くるくる鳴門は1万人超の賑わい。(佐竹)			
	○あぐりを魅力化し発信力の強化を最優先すべき。(佐竹)			
	○今は大型看板で客を呼び込む時代ではないのではないか。(佐竹)			

	○直近の四万十町観光実態調査の資料を確認する必要がある。(中野)
	○地元の意見をしっかり聞き取ることが大切だ。(橋本)
	○道の駅をイメージして浮かぶ具体のものが無い。(橋本)
	○限られた時間の中では、十分な精査ができた状況には至らなかった。(古谷)
	○各自さらに基本設計書を精査し、疑問点等を箇条書きし、自分の iPad に送っても らうこと→それを纏めて常任委員会として担当課に質していくこと。(古谷)
	また、地区説明会の状況も把握した上で、さらに協議することを確認。
	2. あぐり窪川の現状について
	本題に入る前に観光拠点事業基本設計書の一部変更 (P. 18) …遊水池を設定した。
	→バックウォーターへの不安除去
	→後日関係地区 (平串、根元原) 対象に説明会を実施予定
	→大正・十和地域はまちづくり委員会、窪川は区長連絡会で説明会実施予定 の説明を受けた。
	道の駅あぐり窪川の総代会資料に基づき説明を受けた後質疑応答を行なった。
	小笹にぎわい創出課課長より、第 25 期定時株主総会資料における貸借対照表で はコロナ対策として、27,144,000 円の長期借入金が発生しており、これの償還が 始まることから、キャッシュフローが厳しくなること、また損益計算書においては、 全体で営業損失が 28,967,303 円発生し、コロナ対策関連の補助金(22,629,989 円)等 営業外収益 27,375,813 円を計上しても、経常損失 2,163,912 円という結果になっ ていること。
	ホテル・温泉事業部門の収支では営業部門を除いても、3,081,849 円の経常損益 となっている。(ホテル全室で 19 室あるが、スタッフが 35 名必要のところ 25 名し かおらず、10 室を使用し、水・木の 2 日営業できていない。)
	ホテルに関しては、参考資料として次の資料も提示を受けた。
	○指定管理料算定根拠資料
	○指定管理者選定スケジュール
	【質疑応答で出された主だった意見等】
	○厳しい状況にあること確認。プラスを目指していくこと厳しい。(村井)
	○ハイウェイオアシスとの関連はどう考えるか。(村井)
	○指定管理の見通しはどうか。(村井)
	●指定管理に興味を持つものもあると聞く。県にも応援を求めている。(小笹)
	●ハイウェイオアシスとは良品計画の独自建設となる。(小笹)

	●良品計画と道の駅は動線上の連携として、駐車場はあれば良い。(笹岡)
	○温泉部門の切り離しについての議論における主要因は何か。(古谷)
	●令和2年より取締役会で協議してきた経過がある。特に日帰り部門が赤字続きで、年間7,000万円のキャッシュフローがないと厳しい状況だ。そうした経過を踏まえ切り離しの決議に至った。(小笹)
	○コロナ対策借入金の返還はどんな方法を考えているか。(橋本)
	●あぐり全体での対応となる。今年の8月から償還が始まる。(小笹)
	○指定管理者の選定状況はどうなっているか。(中野)
	●まだ具体的には精査できていない。(小笹)
	○観光拠点施設の効果をどう考えているか。(古谷)
	●県の広報アドバイザーの活用も検討している。カンフル的効果はむずかしいが一定花見等人の呼び込みにはなる。(小笹)
	○道の駅は創業何年になるのか。(橋本)
	●本館は平成11年、耐用年数は24年となっている。(小笹)
	○そういうことだともっと大胆な発想で検討してはどうか。(橋本)
	●24年が経過し、大規模な建て替えも想定される。敷地の形状による制約、高速道路の延伸、利用者の増減等数値をしっかりと捉えて、応援・連携していきたい。(佐竹雅)
	○統一したコンセプト。大胆な発想も必要ではないか。(橋本)
	●地場産業振興センターが本来の目的。地場製品の販売促進が使命だと考える。(佐竹雅)
	○地場産業を活かすとしても、もっと積極的な対応が必要ではないか。(橋本)
	○2～3倍に増やす発想はないのか。(橋本)
	○道の駅は印象が薄い。配置の問題もあろうが発信が重要だ。町民もなにを売っているのか知らない。今までと違う方針も必要ではないか。(中野)
	●コンサルから一定提案もあり、動線を意識した改善が必要だと思う。(小笹)
	○現場職員のモチベーションが大事。リニューアルを迎えていることは今がチャンスといえる。(村井)
	○今のオアシス構想に関して現場職員の声は反映されているのか。(村井)
	○四万十町、あぐり、ゆういんぐ、水車屋等が連携した情報発信が重要だ。(中野)
	3. 視察研修について
	○先進地視察研修については、10月3日～5日で調整していくことを確認

	○視察先は島根県神津市～道の駅くるくる鳴門～松原(禰原)農村 RMO を中心に道の駅、バラ園も予定に入れ実施することを確認。		
	4. その他		
	○聞き取り調査に関しては、資料を所管課に配布し、回答を貰ってから対応することを確認。		
	○次回委員会では森林譲与税、森林組合(集成工場)の現況を中心に協議する事。8月 17 日開催で農業委員会との意見交換会、交流会があることとを確認して閉会とした。		
	(午後 1 時 30 分終了)		
報 告 日	令和 5 年 8 月 21 日 (月)	委員長署名	古 谷 幹 夫